令和8年産　大豆作情報　第4号

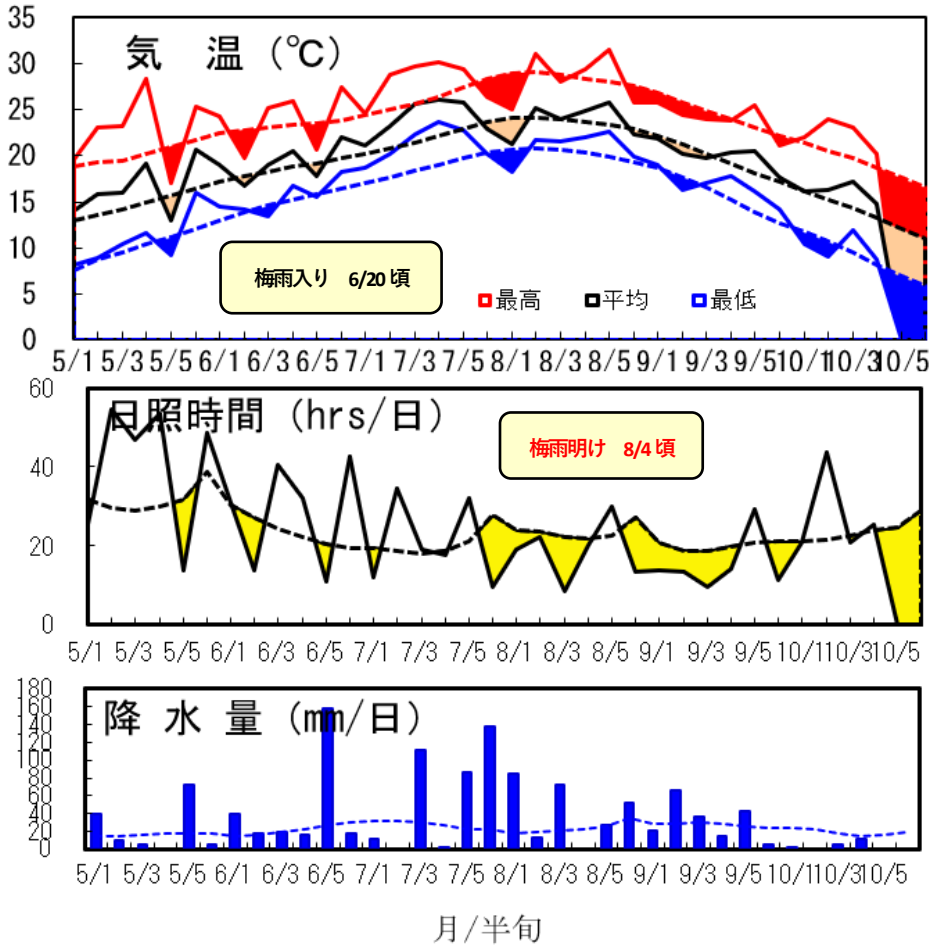
令和８年１０月２８日

JA全農みやぎ

～　大豆の開花期は　平年並みからやや遅い見込み　～

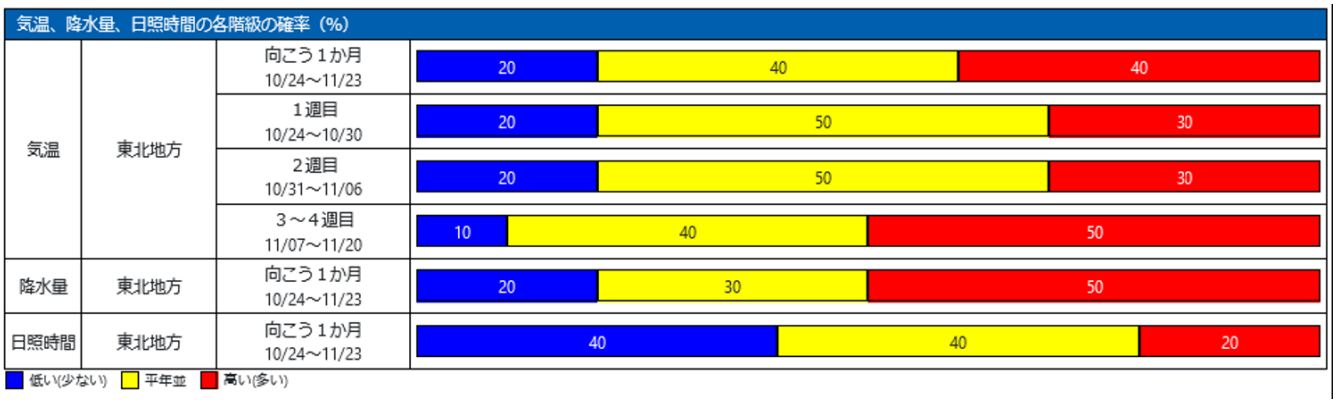
～タンレイは落葉期に　１０月末には成熟期に達する見込み！

1　気象経過



◆10月22日発表　東北地方の1か月予報（10月24日～11月23日までの天候見通し）【気象庁ホームページより】

・天気は，東北太平洋側では，平年に比べ晴れの日が少ない。
・向こう１か月の気温は，高い若しくは平年並みの確率 40%，低い確率 20%。
・降水量は，多い確率 50%，平年並みの確率 30%，少ない確率 20%。
・日照時間は，多い確率 20%，平年並み若しくは少ない確率 40%。

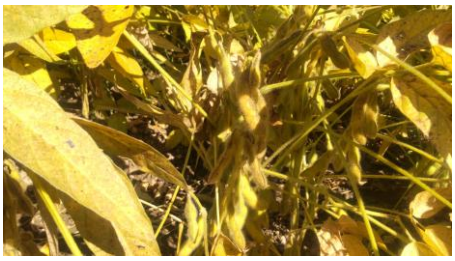


２　生育状況（１０月８～１５日　大豆種子生産ほ巡回資料より）

◆10 月８日現在，タンレイは落葉期，すずみのりは黄葉期～落葉期，ミヤギシロメは一部で葉の黄化が始まっている。長雨等の影響で，生育は平年より５日程度遅れていると見込まれる。



【タンレイ】



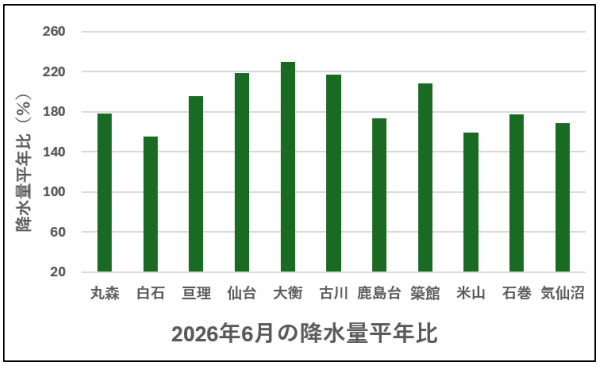
【すずみのり】

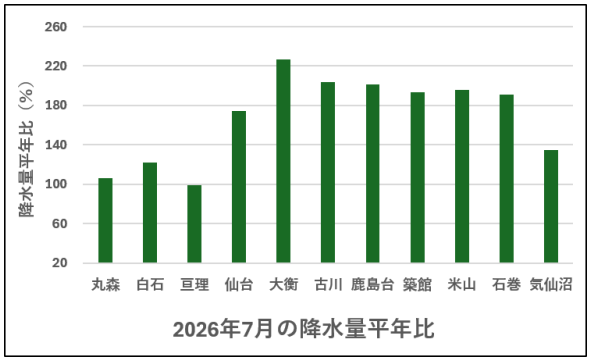


【ミヤギシロメ】

・開花期は７月 24 日頃（普通播き；タンレイ）から８月 15 日頃（晩播き；タンレイ）で，平年より３～４日程度，前年より４日～８日程度遅かった**【宮城県古川農業試験場　作況試験データより】**。

・本年の草丈（茎長）は，平年並み～短いほ場が多い。６月から７月の降水量が多く，湿害等の影響で伸長が抑制されたためと考えられる**（下図参照）**。

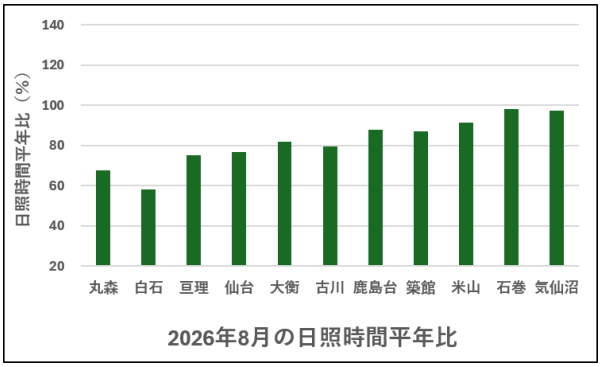


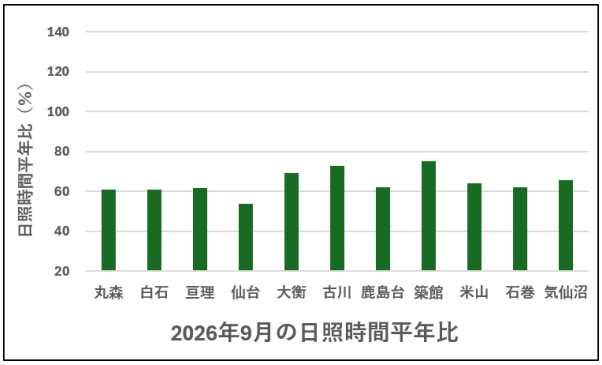


・主茎節数や分枝数は６月前半までに播種できたものは概ね平年並み，６月後半以降の播種（晩播）についてはやや少ない。

・**全般に生育量が少なく，着莢節数が少ない。**

・県内における８月の日照時間は平年比 60～100%，９月の日照時間は平年比 60～80%で，**子実の肥大に時間がかかり，登熟はやや遅れていると推察される（下図参照）**。





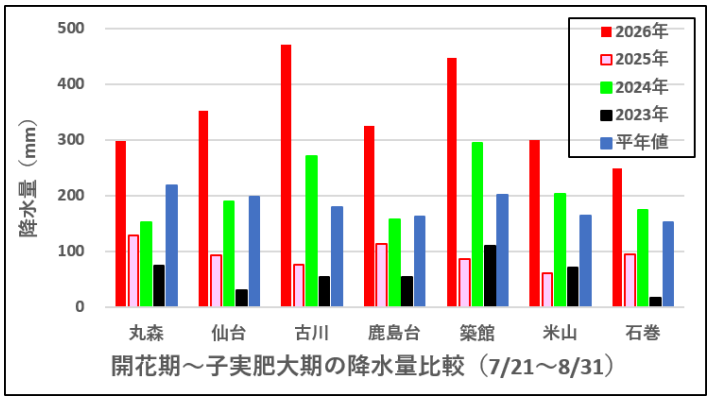
３　今後の管理

１　開花期～子実肥大期（７月 21 日～８月 31 日）の降水量

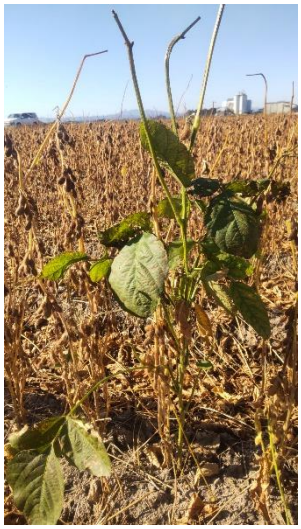
・本年は長雨の影響で，生育が劣り，開花期が平年より遅くなっている。

・令和５年産（2023 年）は子実肥大期に当たる８月の降水量が少なく，名取や石巻など仙台湾沿岸地帯では平年の２割程度，丸森や古川など平坦地帯でも平年の５割程度に留まり，大豆の品質が大きく低下した（下図参照）。

・令和６年産（2024 年）は，子実肥大期の降水量は概ね平年並みであったため，令和５年産に比べて品質低下は少なく，上位等級比率は高かった。
・令和７年産（2025 年）は令和５年程ではないものの，開花期～子実肥大期の降水量は平年の５割程度であった。特に，早生品種のタンレイが開花期を迎えた７月下旬は，猛暑日と降雨のない日が連続し，乾燥しやすいほ場では落花・落莢が発生したところもあったと推察される。



・本年は前年とは逆に６月から８月にかけての降水量が多く，開花期～子実肥大期の降水量は平年比では 137～264%，前年比では 232 から 623%と著しく多かった。そのため，ほ場によっては滞水期間が長期にわたり，中耕・培土や除草剤の散布を実施できないところも多く，湿害によって生育抑制を受けたほ場が多かった。



２　本年の大豆ほ場の特徴と対策

・例年に比べて，青立ち株が多い。左写真は「きぬさやか」のほ場だが，「すずみのり」や「タチナガハ」のほ場でも青立ち株が発生している。
・青立ち株は，株自体の活力が弱かったり，湿害の影響等から落莢が発生し，着莢数が著しく少ない。そのため，本来なら子実（莢）に転流すべき養分がいつまでも茎や葉に残り，落葉時期に入ってもいつまでも青々としているものと考えられる。
・青立ち株を放置したまま収穫すると，汚粒の発生原因となるため，大型雑草のタデ類やイヌホオズキ等と合わせて必ず抜き取りを実施する。
・ミヤギシロメは，まだ黄葉期や落葉期に達していないところが多いが，落葉後に青立ち株が発生していないかどうか確認し，青立ち株が認められた場合は，必ず抜き取りを実施する。

３　収穫に向けて

・落葉の程度や，穀粒の水分・莢の乾燥状態を見ながら，適期収穫に努める。
・乾燥に際しては，子実水分が 18%以上の場合は常温で通風し，水分が 18%以下になってから温度をかける。
・なお，18%以下の場合の乾燥温度は，30℃以下を目標とする。



◎左写真は「ミヤギシロメ」のほ場だが，降雨の影響を受けて一度も中耕･培土を実施することができなかった。しかし，「畝立て播種」を行ったことで，浸水・滞水による湿害を軽減し，発芽もそろっており，生育は良好であった。

→「畝立て播種」は，長雨対策に有効な栽培技術である。